

3月初めの谷川岳東尾根（2007. 3）

3月2日（金）晴

予定していた O さんの親戚にご不幸があって、参加取りやめとなり、M さんと二人で出発となった。東名・練馬經由で水上へ向かう。セブンイレブンに寄ってからロープウェイ駅に到着。寒くないためか先週のように床暖は入っていなかった。2時半に寝る。（相模大野 22:20---ロープウェイ駅 1:30）

3月3日（土）晴

睡眠が足りなかったもので、ほどよく眠り出発したのは、7時15分となった。指導センターに寄り、届けを確認してから、一ノ倉出合へ。この時期、広場のトイレは解体撤去されていた。ここからは河童橋から見る穂高岳のような定番のアングルだが、自分でシャッターを押せるのが嬉しい。積雪期の一ノ倉は、晴れて雪の白さのためだろうか、なぜか秋のような陰惨な雰囲気は感じられない。しかし、ここで何百人も命を落としていることを考えると何とも云えない気持ちになってしまう。この時期、ここへ足を踏み入れるのは初めてだ。



3/3 衝立前沢からのデブリ



3/3 東尾根下部雪稜の M さん

一ノ沢は分かりやすい。雪は安定しているとみた。夏の剣岳の雪渓のようにひたすらキックステップで高度を稼ぐ。シンセンのコルが見えてからなかなか届かず長かった。出合から2時間半かかった。

コルで休憩してから東尾根の登高を開始する。いきなり両側が切れたスパツと切れたナイフリッジ。取りあえず先が分からないので、ロープをだす。すぐに第二岩峰で、左側の立った岩に登路（ルートガイドでは、一ノ倉側をトラバースとあった）を見出す。ハーケンを打ち、あとはパイルでだましズリ上がる。雪稜、雪壁をひたすらピッケルとパイルを交互に刺しながら登高する。気温が上がり、雪質は様々に変化してくる。雪面の下がスラブのところの雪壁は雪も気温で腐り、雪のずり落ちが心配。雪が少ないとはいえ、雪庇を形成するところは要注意。一ノ倉側を進むが、二ノ沢上部の傾斜はとても急で滑ったら、谷底まで吸い込まれて昇天間違いない。高度感はずさまじい。極力下を見ないようにする。上部雪庇帯では M さんはカニに変身してトラバース。M さんが慎重に先行した。

第一岩峰下の雪稜は一級品と思う。さすが上越国境。第一岩峰の正面右の岩に残置シュリンゲがあったが、被っており敗退。ザックも重い。時間も遅いので、無理はしない。右から傾斜の急な二ノ沢上部をロープ1ピッチで巻く。ここから稜線まで近い。あとは M さんトップで雪壁を登り、5時10分に雪庇の切れ間から国境稜線にとび出す。

充実の1日でした。オキの耳に寄ってからトマの耳、肩の小屋に向かう。先客の2人がいて歓迎してくれた。清潔でありがたい小屋でした。



3/3 上部雪庇帯のカニ変身トラバース



3/3 オキの耳の M さん



3/4 西黒尾根を下る

我々中高年パーティにはトレースがあったとはいえ、十分に登り甲斐があった。前後左右の景観が素晴らしく積雪期の名ルートと思えましたね。春山のような条件であったため、水分は 1.5ℓでも足りなかった。朝、チキンラーメンの汁を全部飲んだため、のどの渇きに拍車をかけたようだった。夜はしっかり持参したビール、焼酎、お酒、生ハム・キムチで癒しました。

真夜中にドアをたたくような音に気がつき、胸騒ぎだして飛び起きた。事故った登山者がようやくたどり着いたのかなと一瞬思ったからだ。しかし出てみると風のいたずらと分かって安心した。亡くなった方が多い山なので、そこら中に亡くなった方の霊が存在していそうな感じがしましたね。ゾォー！

(ロープウェイ駅 7:15---一ノ倉出合 8:40,9:10---シンセンのコル 11:45,12:10---国境稜線 17:20,肩の小屋 17:40)

3月3日(土)高曇のち晴

視界も良好で下るだけなので、急いで下ってはおもったくない。西黒尾根からの景観を楽しみながら、写真を撮りながら、休みながらゆっくりと下降する。亀裂の入った大きな雪庇もあった。ダンプ何杯分かいずれ崩壊する。自然の造詣美に感心する。先週は鎖場まで来ていたので、その下に降りて整理のため休憩、登山者が続々と上がってくる。下りはステップではなくトレースのないところを歩くほうが適度なクッションがあり、私の踵には具合よい。鉄塔からは夏道のトレースをたどる。道路まではたいして時間もかからなかった。

「湯テルメ谷川」の温泉で汗を流し、露天風呂からは白い国境稜線を眺めることができた。黒々した幕岩がみえました。山麓は1カ月早い春の訪れを感じましたね。関越の途中で食事をとり早々に練馬・東名経由で帰相。

(肩の小屋 7:45---ロープウェイ駅 11:10---湯テルメ谷川 12:30---相模大野 15:35)

以上



東尾根の雪稜や雪壁をひたすら登る



一ノ倉沢側二ノ沢上部の雪壁から巻く